

平成 27 年 網走市議会
総務経済委員会会議録
平成 27 年 11 月 13 日（金曜日）

○日時 平成27年11月13日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 行政視察の取りまとめについて
2. その他

○出席委員（8名）

委員長	渡部 眞美
副委員長	井戸 達也
委員	川原田 英世
	工藤 英治
	佐々木 玲子
	田島 央一
	立崎 聡一
	松浦 敏司

○欠席委員（0名）

○委員外議員（1名）

議長	山田 庫司郎
----	--------

○傍聴議員（7名）

小田部 照

○事務局職員

事務局 長	鈴木 直人
次 長	永倉 一之
主 査	小林 久一
総務議事係長	岩尾 弘敏

午前10時00分開会

○渡部眞美委員長 おはようございます。

ただいまより総務経済委員会を開催いたします。

本日の委員会は皆様に御案内のとおり、行政視察の取りまとめについての意見となります。

11月の6日までということで皆様には、レポートを提出していただいたところでもあります。

当初、取りまとめについては、もう少し遅い時期にということを感じていたと思います。

私もそのようなつもりで皆さんに委員会でお話をしておりましたが、その後、議会報告会の次第の中

に、行政視察を皆さまに報告ということで常任委員会の報告が入りましたので、日を改めましてきょうお忙しいところ御参集いただきました。

ありがとうございます。

これまでのレポートの取りまとめについては、各自1人ずつ、印象に残ったところを各市について報告をいただいたところでございます。本日もそのような形で、簡単に順番に報告をいただいていく形をとりたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

その後、副委員長と相談いたしまして、報告の内容等、皆さんに確認をしていくなどしていきたいと思っておりますので、まず1人ずつの報告をお願いしたいと思います。

私のほうから行った市につきまして、改めて皆様にお示しをしたいと思います。

10月の20日から23日の間、最初福岡県の大野城市まちなかわくわくパビリオンの事業について。

次に、熊本県天草市、天草宝島二地域就労促進事業と人材育成事業について。

次、熊本県の上天草市、観光おもてなし課の業務内容と人材育成の取り組みについてと、6次産業化マスタープランについて。

最後に、同じく熊本県玉名市、6次産業推進事業についてということで、視察をしてまいりました。

田島委員のほうからお願いいたします。

○田島央一委員 おはようございます。

視察報告で全部が全部読むつもりはありませんが、自分の気になった点、大野城市のほうからお話しします。市役所の役割、関わりというのが一歩引いた形で民間にしっかりと任せていくという姿勢がありました。

この点は目を見張る部分なのかなという感じがしました。

組織の運営も含めて、このようにしていたところ非常に評価が高い。

方針が一貫していたのがわかりやすかったということがありました。

熊本県の天草市ですが、私が1番気になったのはANA総研の方が派遣で来られていたというのが非

常に印象深かったです。

なぜかという、私も道北にいたときに観光のイベントや会議体があったときに、ANA総研の人が来て、アドバイスをしたり、全日空の事業のようなものを紹介をし、このようなものもありますというそのまま帰ってしまうということがよくありました。事業にしてANA総研の方を派遣という形で取り込んでいくやり方というのは、こういうやり方もあるのだということに驚いた部分もあります。

上天草市の視察報告ですが、事業体として2つありましたが、観光おもてなし課は非常にうまくいっていたという印象があるのと、国際的な6次産業化のマスタープランのほうは、あまりうまくいってなかったのではないかなというふうな印象を持っています。

これは資料だけではなく、よくよく見ていくと市長が代わられて、前の市長が30代のすごくやり手な方で、いろいろなプランを企画したり、リクルートの人と市役所をつなげていくということを熱心にやられた方でしたが、昨年12月の選挙のときに退いてしまったので、そのときの計画が惰性で6次産業化のマスタープランをやっているのではないかなという形で、ほかの委員の方からも質問があったときに、目標が高いところにあったが、どの程度進んでいるのかというのが、やはりハードルを越えられていなかった部分があり、なかなかこの辺は、自分も事前にここをみたいなと思いいろいろ調べましたが、政治情勢のようなところの観点が、私はそこまで見ていなかったので行ってみて、どうなのかなというところも感じたところです。

最後に玉名のほうの視察報告は、事業者がしっかりやる気があるかないかというところの差が非常に大きかったことと、環境的には熊本県の知事が農協の出身で、海外の農学部を卒業されており、農業に熱心な方というのもあり、熊本市に隣接する玉名市としては研究機関だとかいろいろなものをうまく活用できるという非常に恵まれたところにあり、こういうことができているのかなというのは非常に印象的でした。

以上です。

○渡部眞美委員長 続きまして川原田委員のほうからお願いいたします。

○川原田英世委員 私のほうから視察報告をさせていただきますと思います。

田島委員からあったとおりなので重複するところ

が多いですが、まず大野城市のほうですが、最後のほうに書かせていただきました行政側と商工会などの団体が役割分担を明確にしながらしっかりと協働しているという形。理想形に近いのかなと思いがら、それを網走にはめたときにどういったことができるのかということを考えさせられる、非常にいい視察になったと思っております。

まちの規模が違っているなど抱える状況が違うので、何とまで関連性をもって見つめるかというのは難しいところもありますが、まずもって行政と市の団体、市内の団体とのかかわり方というのは、これから考えていかなければいけないことだなと思いがら見させていただきました。

そして次の天草市は逆に状況はかなり変わって、1次産業等考えると網走に少し近いところはあるのかなと思いましたが、戦略はしっかりあるというところでは。

都市部のマーケットと地元の企業を結びつけないと地域はこの先、生きることにはできないというような主幹がはっきりと見えたなと思います。

そこをしっかりと推進しようとしているなというのは見えて、ちょっとうらやましいなというところもありました。

まだ結果に結びついていないというところだと思いますが、三井住友海上もビジネスマッチングだとか、新しい取り組みがあったりして、これから注視しながら、機会があれば網走もそういったところに参画していけるのかなというようなことを見させていただいたなと思っています。

宝島人材育成事業に関してですが、これもおもしろいですね。起業を勧めるということ、そこまで出来るということが見えてきて、確かに起業された方はまだ3名ということもありますが、起業は、U・Iターンの数と違って、そこでしっかりとベースができれば、雇用も大きく膨らみ、さらなる枠が広がっていきますので、起業を勧めるというのはこれからの地域では必要になってくるだろうなというのは見えてきました。

「アマビズ」も夜のぞいてみましたが、すばらしい場所だなと思いました。地域にいながらも都市部に対して直接、販路を形成していく。

これはIT化、グローバル化も含め、これからそういう時代になってくるのだと思いますので、しっかりとそういう取り組みをこれから注視しながらこちらも進めていかなければいけないと思っています。

す。

次、上天草市の観光おもてなし課。人材育成。

市の職員内部に対しての教育、そういうところの持ち方、市の職員みずからが名前も出していながら市の職員がみずからみずからを教育プランを持ってやるということがすばらしい取り組みだなと思っていました。

行政マンになるというような書き方をされていましたが、縦割りの排除だとか、どうやって市民に対して直接、チームとしてしっかりと支えていける体制を構築していくかなど、そういったところが参考になるなと思いました。

次は6次産業化マスタープランですが、このあと2つ続いて6次産業化を視察した中で思ったのは、それぞれの自治体で6次産業化に対し、補助の対象者が違うというところで、1次産業者に限定して補助を出しているところと、2次産業、3次産業の方でも6次産業化というか、地域のブランド化をすれば、補助が対象になるというところ、そのすみ分けはそれぞれの自治体で判断が違い、もちろんまちのニーズによって変わってくるというか、まちの産業のあり方によって変わってくるのでしょうか、そのように、見方によっては、そういうふうに行けるといえるところが1つ見えてきたなというところで

す。まだ試行錯誤しながら、いろいろと悩み苦しんでいるなど、この両事業とも思いました。ただ、新しい商品がちゃんと生まれて販路をつくっていける土台はできてきているという、そんな簡単にポンとできるようなものではないので、同じく、これからの動向を見ていきたいなど、2つ両方合わせてです。両方ともしっかりとまちの中に、まちの付近に試作品をつくれる場所が市や県にあります。それはやはり大きいです。

そこで試作したもので必要なものがわかり、明確になって、そこに対してしっかりと補助ができるという市のバックアップの仕組みというのが大切だなと思いつつながら、網走にもいろいろ加工するところはあり、そこを民間の企業に開放し、さらにそこから6次産業に結びつけられるなにかを、というのをこれから考えていかなければいけないところだと思います。

以上です。

○立崎聡一委員 改めて、おはようございます。

報告ということで、田島委員、川原田委員、順番できましたが、感じ方とかというのは恐らくみんな

それぞれあると思います。

事業それぞれの内容ですが、大野城にしましても上天草市それから上天草のほうも、人材育成の関係については、行政とまちの人たち、それから商工会などの協力だとかという、雑駁に言ってしまうと、その辺のまちおこしのものの取り組み方がきっかけだろうなというふうに感じました。

田島委員が言っていたように、ANA総研はすごいなというふうに思いましたが、今後の種まきの1つだろうなという。方法の1つ、種の1つだろうなというふうに感じて帰ってきました。

そのまま当てはまるかどうかは別として、すごく参考になったのが正直な意見です。

それから、上天草と玉名の6次産業化についてですが、6次産業は難しい事業だということを改めて感じました。補助の出し方などいろいろありますが、当市と比べると、やはり自分たちの遅れているところですか悪いところというのが、すごくよくわかりその辺が全く同じような解釈ということにはならないと思うので何とも言えませんが、これから、いずれにしてもこれからのだろうなというふうに思いました。

全体的に思ったのは、やはり置かれている北と南の端と端なので、人口についてはどうのこうのと多或少ないというのは別としても、置かれている立場は似ているだろうなということで、今後のいろいろな意味で、全部をとというわけにはいきません。この部分だけはどうかがありました。そこは1次産業を私もやっていますので、参考にさせていただければというふうに思います。

以上でございます。

○佐々木玲子委員 改めて、各市それぞれについてというよりは、全体をとおして一番感じたのが、例えば大野城市にしてもわくわくパビリオンと言われても、どんなことかなと正直調べても今1つピンとこなかったのですが、行ってみましたら、本当にベッドタウンで人口がどんどん増加している中、地域の方たちがどうつながっていくのかという、その辺をしっかりと行政が仕掛けをして、そして事業主体が商工会だということが非常に網走にはない、どうしてもこういうことになる行政が下づくりをしてしまうのですが、それが違うというところが1つ非常に参考になるなと思った点です。

そして、この事業が、独自の財源でやっていけるようにしたいということを最後に聞いて、積極的に

やっぴらっしやるなど。そういうところがうちも仕掛けができればいいのではないかなと。非常にいいお話を聞いたなと思いました。

まちのこれからの活性化の参考になる話だなと聞きながら思いました。

天草市においては今、何人の方もおっしゃっていましたが、ANA総研が来ての協力でというのは非常にすばらしいなと私も思いました。

このときに、まちなかの事業の活性化という点では、何を活用しているのかと、資料の中にありました「アマビズ」。これが中小企業支援センターの機構のプロジェクトに乗ってやっている。これはどこにでも、それぞれ全都道府県に最低でも1カ所は支援センターがあるということで、網走においてもどうなのかなと帰ってきて調べましたら、北見にあるそうです。ですから、ここをうまく活用し、商工会議所につながっているそうですが、なかなかまだまだ積極的に活用されている状態になっていないということで、これをこれから、もし提案ができるのか、何か仕掛けができるなら「アバビズ」というような形でこの中小企業支援センターの事業をうまく活用して、網走市も活性化していけたらいいのではないかなと。非常にこの「アマビズ」については、強烈な印象を受けて帰ってきました。なんとかこちらでもそれを導入できないものかなと思っているところです。

三日目は上天草へ行ったわけですが、6次産業化マスタープランについては、立崎委員もおっしゃっていましたが、なかなか参考にはならないかなという感じがしました。観光おもてなし課の事業内容としては、この人材育成の取り組みということで、まさに今、求められているのは、どんな事業体であっても人づくりがしっかりしていかなければうまく作用していかない。すごく強く感じる観光おもてなし課の話でした。

最後に、玉名市の6次産業ということでしたが、同じ6次産業でも玉名市については少し具体性があり、規模的な問題、農業の規模的な問題からいくと、なかなか難しいですが、いろいろと6次産業の内容を見ながら、参考にできるところもあるのかなと思ったところでありました。

玉名市で一番印象に残ったのは、行政はプレイヤーではない。プレイヤーは事業者だという。

これが本当に私にも強く印象に残りました。

その辺で、これから行政のかかわり方として参考

にすべき点があるのではないかなと思ったところです。

全体を通しまして、4市それぞれに地域性を活かすこと、また人材育成、行政の変革を視点に入しながら、独自で生き延びていく方向性を模索しているという点では、これからの地方創生という観点で、それぞれの地域がどう生き延びていくかという点では、充実した視察をできたなと強く感じて感動して帰ってまいりました。

以上です。

○工藤英治委員 視察というよりもアイデアと知識を得させてもらったことが大事だと思いました。これ以上のことに関してはアイデアとか知識は多くいろいろあります。ですが、それを実行に移せるのかと。その地域、その地域の特性に合ったものをようやく彼らが行動に移していて、それでも成功するかしないかというものが、ほとんどであると私も見てきました。

そして玉名市の場合の事業者が主体であり、それに対して応援するのだという、個々のベースが大事なこと。当然だと思います。

それから二地域。天草。これらは本当に利用させてもらえたらいいなと。ですが、それが行政主導で本当にこういうことが出来るかといえば、玉名市が言うように、やる気のある人がやることに対して提案があれば応援するというものでないと、こちらから手を出してこういう案があります。データがあります。やってみませんか。それはあくまでも案だけで、アイデアだけで、そのあとは続かないと思う。

これから特にそうですが、そういったいろいろなものがある中で、地域が何に的を絞って応援するかというのは、やる側の意識の高さに合わせて組んでいかないと、今までもずっといろいろな、おでんを作ったなど。ああいう類で、予算があるから使っしまえというそういうことばかりでは、行政主導というのは、もうそれも国から来たお金の中での行政主導であって、本当に何回も繰り返しますが、事業者、やる側が本当にこういうことをやりたい、ああいうことをやりたいといろいろな案を示してきたものに応援するという、そういう制度をつくっていったらいいなと、そんなことを強く感じてきたような次第でございます。

○渡部眞美委員長 ありがとうございます。

松浦委員のほうから報告願います。

○松浦敏司委員 皆さんからも出ていました重複す

ると思いますが、大野城市のわくわくパビリオン。

行ってみてわかったのは非常にたくさんの行事をやっており、2カ月間にわたっているいろいろな形で行っているという点。ここでも行政と主体となる商工会との関係でいうと、なかなか難しいですが、関わり過ぎてはまずく、薄すぎてはまずいという中で、非常に関わり方がうまくいっている例だろうなというふうに感じました。

全体の参加している人たちの感想も、大変満足は47.7%と満足が42.2%、約90%が満足するというそういった取り組みというのは、そうそうあるものではない。そういう点では、非常にこの地域にあった取り組みというふうになっているだろうというふうに感じました。1つ残念だったのは、現場を見られなかったことで、現場の関係者のお話でもできれば伺いたかったというふうにいるところでは。

2日目の天草市についてですが、二地域就労促進事業ということで、全国どこでも同じですが、人口減少が際立っているということで、今、平成22年の国調では、8万9,000人が5年間で約7,000人ペースで減少するというので、平成42年には5万9,000人になるというような見込みも立てているという中で、ここでは京都大学経営管理大学院と連携ということ、それから全日空、ANAグループとの協働プロジェクトというようなことで、これによって非常に認識が変わるという形。

そういう意味では、大学と民間との力を非常に有効に利用しているなというふうに感じておりました。

それからここで担当者が言われていて印象に残ったのは、大きな企業誘致をして100人雇用するよりも、地元の小さな企業が100人雇用したほうがはるかに地域にとってはいい。そちらのほうを私たちは選んだ、というふうにお話があり、非常に感心したところでは。

リターン率が20%もいるという点も非常に感心しましたし、その人たちが実はまちを元気にする活動に積極的に関わっているというのも非常に印象的でした。

3日目の午前中は上天草市でした。

おもてなし課の業務内容と2カ年の人材育成に取組みと6次産業でしたが、さすがにおもてなし課があるだけあり、非常におもてなしがよかったというふうに思っています。

ここでも実は民間企業のリクルートから3年間、

職員が出向しており、職員に意識改革ということで強調していきまして、公務員から行政マンへということも強調していました。その中でもあったのが、組織の成功循環モデルとしては、関係の質の向上が成功へと導くというような関係で、人間関係の質が高まるとか会話や対話を通じてアイデアが生まれる、それに伴って行動の質が高まり結果の質につながるという、組織の成功循環モデルというふうに言っていたところでは。

その逆という点では、組織の成功循環モデル。これは何よりもまず人間関係の大切。関係の質を高めることを始めることがグッドサイクルということで、逆に結果の質の向上から始めると、それは成果が上がらず、対立や押しつけ命令を横行する。関係の質が下がる。

従前は縦割りで個人行政目線として遠慮、内向きだったのがチームワークになり、地域目線、自主性、外向きになるようなイメージを描いていくことは非常に参考になることではなかったかなというふうに思います。

それから6次産業の関係ですが、非常に関心をしたところでは。開発商品づくりでは市と民間で主導して行って、108品目の加工開発に着手して、46品目が商品化しているということでありました。

ただ、これは6次産業化というのはやはり非常に難しいものだというふうには感じました。

そもそも6次産業というのは、比較的規模の小さい第1次産業を想定し、その中から生まれている関係からいって、網走のように第1次産業の規模が大きいという場合は、特に農業でいえば、九州の規模からすると比べようにならないくらい規模が大きいという点で、そこにかかわる男性にしても女性にしても、なかなかそこには十分かわりきれないという問題があるだろうなということでは、網走なりの工夫をしない限り、なかなか難しい事業だというふうには感じました。

最後の熊本県の玉名市の6次産業、いろいろと伺って、みかんチップなどが成功をしている例でした。既にここでも農産物加工品は59品目以上というふうなことで、やはりここも規模としては小さな農家の規模だと、あるいは3次産業などもやっていますが、いずれにしても6次産業化というのは非常に難しい課題。特に農業関係は難しいし、かえって漁業関係のほうがかえって見通しがあるのかもしれない、そんなふうには感じたところでありま

す。

4つの行政区それぞれありますが、この玉名市でもできれば、みかんチップ工場を見たかったというふうに思います。その辺が残念な点ではありますが、非常に刺激をいただく視察だったというふうに思っております、今後の活動に生かしていきたいというふうに感じたところです。

以上です。

ありがとうございます。

○井戸達也副委員長 皆さんからそれぞれ非常にいろんな部分で注目された部分があったのかなというふうに思います。

私のほうからも簡単にお話をさせていただきます。

最初の大野城市からですが、観光協会がないという部分から、これに変わって地元商工会が主体となったわくわくパビリオンということで、期間を限定された中でイベントが集中している。そしてまち全体がお祭りムードに染まっていくというようなやり方というか、非常におもしろいなというふうに思いました。

網走においては、さまざまな目的でさまざまな団体がそれぞれのイベントを行っていますが、このようにまちを挙げての一環した取り組みというのは、非常に魅力的だなということと、それに携わる人方がまちの末端まで行き届いているのかなという印象を受けました。

熊本県天草市ですが、ここもまた人口減少と高齢化の上昇ということで非常にまちに対する危機感というものの中で、こういった事業を精力的に天草市と信用金庫と商工会議所、商工会といったところが連携して事業を進めていくという流れの中で、やはりまちに危機感をどれだけ持っているかということが、まず1つ事業の成功につながるのかなというふうに感じております。

この二地域就労につきましても、何かいいアイデアはないかということで、まちが全体となって考えた結果でこういった取り組みも非常に前向きである。

事業のこれからの成功がどのようにつながっていくかという部分は、まだこれからというふうに思っておりますが、まちの将来を考えて若者が地元で働いていくために必要な取り組みであるというふうに変参考になると感じました。

上天草市のおもてなし課についてですが、観光振

興の強化ということで、意識を公務員から行政マンへと変えていくのだというところで、その中で、まず人づくりが大事なのだという部分で、単なるイベント屋ではなく、地域を巻き込むコーディネーター役ということに意識を変えていくというところが非常に印象的で、関係の質が1番重要になってくる。これはいろいろなことに言えると思いますが、まず関係の質を強めていくことで、事業が成功していくという部分も非常に強く感じさせていただきました。

6次化についてですけれども、6次はいろいろとやはり課題が多いようで、先ほどからお話もありましたように、まず6次化を進めていく上で研究センター、加工する施設ですね。やはりこういったものが、まず充実していくことと、いろいろな意見を集約した中で、チャレンジ精神というか、まずやってみるのだという場所の提供という部分もひとつ必要なのかなというふうに感じております。

目標も、10年間で経済効果目標50億ということで、非常に高い目標を設定しているという部分では意識の高さというものを感じたところであります。

玉名市の6次産業につきましても、先ほどお話がありました、いろいろな課題がある中で、苦戦しながら取り組んでいる事業かなというふうに思いました。

その中でも行政のほう市の職員が10名体制ということで、6次産業の窓口に張りついているという部分を考えますと、非常に危機感を持って取り組まれているのかなというふうに感じております。

こういった中で具体的な部分で、13事業者が59品目以上の開発に取り組まれているという部分で、ふるさと納税のお返し等に活用されているということもお聞きいたしました。

行政と事業者の思いの強さと、人と人とのつながりという部分が感じられて、ともに現状認識して知恵を絞り出す覚悟がある程度成果に結びついてきているのかなという印象を受けました。

現場を見るということができなかつたので、非常に問題点という部分もわかりづらい部分もありましたが、いずれにしても行政の意識の高さが市民意識の高さにつながって、事業の成功に結びついていくのかなという印象を受けました。

危機感を高く持つことで事業に力が入っていくのかなという部分で、私の報告を示させていただきます。

○渡部眞美委員長 最後に私のほうからですが、皆さんに相談がございまして、今それぞれ各委員から全市について、視察先について簡単なレポート提出にあわせて、簡単に口頭で述べていただきましたが、今度議会報告会の中で、私と副委員長のほうで、今は感想だけでしたが、大体このようなことを見てきたというみんな共通のレポートを上げていただいているので、それを簡単にお示しをしながら、共通の感想の部分をごとうところでした、というように形を作り報告をしないといけないのかなと思っています。そんな形できょうの委員会の中でも、全市について言っていただきましたが、例えば今、大野城市のまちなかパビリオンについて、私が今皆さんの取りまとめを言いますので自分の報告と合わせて、そこで何かつけ加えたりなどして、委員会の報告にしたほうがいいのかなど思ったのですが、いかがでしょうか。

○工藤英治委員 <聴取不能>

○渡部眞美委員長 暫時休憩いたします。

午前10時39分休憩

午前10時51分再開

○渡部眞美委員長 それでは再開いたします。

それぞれ各委員から各市その事業について各報告をそれぞれいただきました。

簡単に皆さんのほうから私が共通点だったところを申し上げて報告といたしたいと思います。

まず大野城市のまちなかわくわくパビリオン事業についてですが、方針・役割が明確になっていることと、ここは観光を取り組んでこなかったもので、あくまでもまちなかにぎわいを創出することと、商工会が中心となってやっているということで、方針や役割が明確になっていることが事業の成果としてしっかりと、あくまでも事業者さんが主役である、それを支えていくのだということが明確になっているので成功しているのではないかと。

その参加した人たちのアンケート等からも成果があらわれているということがわかるということでありました。

天草の二地域就労事業また人材育成事業については、さまざまな都市部と天草が結びつくようなプロジェクトを行っている中でも、天草の職員の方また地域の方に大きく影響を受けているのが、ANAからの派遣の方の2名の影響が即座にあらわれており、さまざまな取り組みをしているということ。

また、「アマビズ」という中小企業センターを立

ち上げてやっているところが特徴的、または印象的であって、これは当市においてもできたらいいなという意見が出ました。

また担当者の言葉で大きな企業を誘致するというよりも、天草の市内の店舗に1人でも多くの雇用100店舗に1人の雇用のほうが大事だということで、取り組んでいるという先進的な取り組みをしているということに、皆さん感銘をいたしたところがあります。

また人材の育成は社会人のみならず、高校生を対象にした起業塾を平成24年度から開催しているということで、これは将来の人材の育成につながるものであり、これも参考にしたいという皆さんの意見がありました。

少なくとも、また起業したいというアンケート調査などの結果から高校生の気持ちがわかるといったことで、これは今後のまちづくりなどにも活かせる高校生とのコンタクトだということをおっしゃいました。

次の上天草市のおもてなし課の業務と人材育成、また6次産業化マスタープランについてであります。ここは当初、議会のほうが特別委員会開催中ということで、一旦受け入れが不可能と言われたところでありました。

それがあとから担当者だけでよろしければ、ぜひお越しくださいということで、追加した市でありましたが、おもてなし課の皆さんというのは、実際に私たちが行って、行くまでの対応もよかったです。その名に負けない対応であったというのが皆さんの印象であったということと、職員の意識改革をしていて、公務員ではなく行政マンへという精神と人間関係の質を高めるといったことに取り組んでおり、その結果観光のおもてなし課という名前も、皆で、考えた名前だということでありました。

大変うまくいっている事業で、人材育成については皆さんの印象であったということ。

国際的6次産業化マスタープランについては、まだ、10年間の計画を作成してございまして、その途中経過としては取り組んでいることは、少なくとも結果は出ているところではありましたが、なかなか苦勞されているところというのもお話を伺えました。

期待をしていて、10年間で経済効果目標額を50億円としているということは、大変立派なことであると。

その気持ちには賛同するものでありまして、次の

日の6次産業化、玉名市の推進事業とここはまた、
比べるものではないですが、両方行って違いがわか
ったというのが皆さんの御意見でありました。

玉名市については、相談体制の充実をして、しっ
かりと生産者の思い入れに寄り添っていると。

あくまでも私たちの役割というのは相談体制と補
助金ですとか、事業者の方たちを育てるために、何
かできることはないかという立ち位置がはっきりし
ているという、そういった事業だから、しっかりう
まくいっているのではないかというのが皆さんの御
意見だったと思います。

すべてみなさんの取りまとめが私の口からできま
せんでしたが、皆さんのレポートをもとにして調査
概要添付して取りまとめたものを議長あてに後日
提出をしたいと思います。

最後にこれまで事務局の方にもいろいろと事務的
なことやっけていただき、この場をもちまして委員一
同感謝を申し上げたいと思います。

○渡部眞美委員長 他に何かつけ加えたいこと等は
ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これをもちまして総務経済委員会を閉会いたしま
す。

午前11時01分閉会
